

Tea Time

vol. 74
2020
AUTUMN

無料配布

special issue

日本赤十字社医療センターが一丸となって取り組む 新型コロナウイルス感染症対策

感染症科部長 上田晃弘



専門看護師・認定看護師の知恵袋

尿失禁を改善し快適な生活を送りましょう

皮膚・排泄ケア認定看護師 大沢順子

なんでも大辞典

こぐまチーム

～がんになった親を持つ子どもへの支援チーム～

ママと赤ちゃんのHAPPY BIRTH ROOM

周産期における「小児外科」の役割

周産母子・小児センター 副センター長/

小児外科部長 中原さおり

日赤医療センターの基本理念

赤十字精神『人道・博愛』の実践

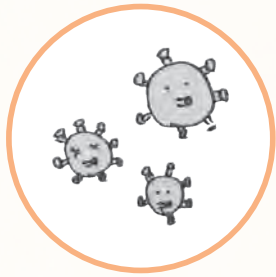
『人道・博愛』の赤十字精神を行動の原点として治療のみならず健康づくりからより健やかな生涯生活の維持までトータルでの支援サービスを提供します

日本赤十字社医療センターが
一丸となって取り組む

新型コロナウイルス感染症対策

今年1月ごろに中国で感染が確認されて以来、世界各地に広がった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)。日本赤十字社医療センターは、診療科の枠を超えて全力で取り組んできました。いまだ感染の収束が見えない中、医療の最前線で奮闘する感染症科の上田晃弘部長に、これまでの対応と今後について伺いました。 (取材日：7月中旬)





新型コロナウイルス

「新型コロナウイルス (SARS-CoV2)」はコロナウイルスの一つで、もともと風邪の原因となるコロナウイルスの新種です。ウイルスは一般的に、自分自身では増えず、動物の粘膜の細胞などに附着して増殖します。ヒトに感染するコロナウイルスには、風邪の原因となる4つのウイルスの他に、2003年に流行した重症急性呼吸器症候群 (SARS) を引き起こす SARSウイルス、2012年に確認された中東呼吸器症候群 (MERS) を引き起こす MERSウイルスがあり、今回流行している新型コロナウイルスは、7番目に当たります。

【感染のタイプと特徴】

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、飛沫 (くしゃみや咳などで放出されたウイルスを含んだ飛沫を吸い込む) や接触 (ウイルスに汚染された物に手で触れ、その汚染された手で粘膜を触る) を介して感染します。

ただ、感染して症状が明らかになる前から感染が広がる可能性があることが、専門家から指摘されており、また、無症状感染者 (PCR検査で陽性にもかかわらず症状がない感染者) もおり、感染予防の徹底が重要とされています。

【症状】

COVID-19は多くの場合、発熱に加え、せきや喉の痛みといった呼吸器症状、頭痛、倦怠感といった症状を引き起こします。低い頻度ですが下痢や嘔吐などが起きる場合もあります。高齢者の方や、糖尿病、心不全、呼吸器疾患 (慢性閉塞性肺疾患など) といった基礎疾患をお持ちの方、治療に免疫抑制剤や抗がん剤を使っている方は、重症化する危険性が高くなります。



PCR検査

COVID-19の疑いがある患者さんの検体 (鼻腔ぬぐい液、唾液) を特殊な液体につけて、ウイルス遺伝子の特徴的な一部のRNAを切り取って増幅させるもので、とても精度の高い検査方法です。



感染症科部長
上田 晃弘

はじまりはクルーズ船の患者受け入れから

——日赤医療センターで最初に新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の患者さんを受け入れたのはいつでしょうか。

当センターで最初に COVID-19 の患者さんを受け入れたのは2月11日、横浜港に停泊していたクルーズ船、ダイヤモンド・プリンセス号の患者さんでした。ダイヤモンド・プリンセス号からは、最終的に3人の患者さんを受け入

れました。

以前にも中国からの帰国者、渡航者で、風邪症状や発熱で外来を受診された方がおり、その中には COVID-19 の患者さんも含まれていたかもしれませんが、しかし、当時は PCR 検査がほとんど実施されておらず、正確な診断が付いている人はおりませんでした。

その患者さん方は PCR 検査で陽性だと確認されたわけではありませんでしたが、私たちは COVID-19 の患者さんであると想定して対策を取っていました。発熱など疑わしい症状がある方が来院した場合には、他の患者さんと

の接触を避け、別の場所で診察するようにはしておりました。

——2月以降、患者さんはどのように増えていったのでしょうか。

明らかに PCR 検査で陽性の患者さんが増えたのは、3月下旬から4月にかけてでした。その頃の一日当たりの入院患者数は、陽性、疑い患者とともに10〜15人程度です。疑い患者が多いのは、新型コロナウイルスに感染しても、臨床症状や画像診断で区別をすることが難しいためで、普通の風邪か肺炎だろうという患者さんも少なくありません。

用語解説



ECMO (体外式膜型人工肺)

肺に酸素を送り込む人工呼吸器と違い、肺機能が極度に低下した患者さんの血液に、直接酸素を送り込み、二酸化炭素を取り除く医療機器です。



N95マスク

マスクは基本的に、外からの感染を防ぐものではなく、自らの感染を広げないためのものです。COVID-19は無症状の場合もあり、感染を広げないために重要です。一方、N95マスクは、NIOSH (米国労働安全衛生研究所) の基準をクリアしたマスクで、元々は粉じんの多い場所で、粒子状の物質の吸引を防止するために使用されていました。SARSやMARS、新型インフルエンザなどの感染を予防する効果があったことから、医療用としても使われるようになりました。



COVID-19専用とした緩和ケア病棟の病室
(現在は平常通りの緩和ケア病棟です)

んでした。それでも疑いがある以上は入院していただくかなければいけません。そういう患者さんに対してはPCR検査陽性の患者さんと同じような対策が必要ですから、始めのうちは疑い患者さんに対しては、かなりのベッドや人手を割いていました。

その後、右肩上がりにPCR検査陽性の患者さんが増えていって、ゴールデンウィーク前後でピークを迎えました。ピーク時には一日当たりの入院患者数が30人を超え、常に満床の状態でした。そのうち約1割の方が重症化して、中にはECMO (体外式膜型人工肺) による集中管理を必要とする患者さん

もいました。これらは主に高齢者や基礎疾患のある方、人工透析を受けている腎疾患の患者さんでした。

物資が不足する中でも 感染対策を徹底

— COVID-19のために、院内ではどのような対策が取られていたのでしょうか。

当センターでは、以前から大規模な感染症の拡大に備えて、緩和ケア病棟の一部を感染症対策のために割り当てていました。最初にそのエリアを使っていたのが、ダイヤモンド・プリンセス号か

らの患者さんの受け入れの時です。患者さんが増えてくると、緩和ケア病棟の分だけでは足らず、一部の一般病棟をCOVID-19専用としたので、ピーク時には40床近くのベッドを使用していました。

PCR検査陽性の患者さんは全員個室に入院します。直接会わずに確認できることはインターホンで行うことで、医療者と患者さんの接触をできるだけ避け、明確にゾーニングするなどとして、院内の感染対策を進めました。

医療者らは、普通のマスクよりも性能の高いN95マスク、グローブ、長袖のディスボーズブルガウン、ゴーグルやフェイスシールド、キャップといったものを着用して対応しています。しかし、ピーク時には、N95マスクが不足し、本来は使用ごとに廃棄しますが、1〜3日使わざるを得ませんでした。

当センターの考え方としては、外来でも入院でも同じで、全ての患者さんが新型コロナウイルスに罹患しているかもしれないと想定しておくということです。とはいえ、全ての患者さんに対して数の限られたガウンやグローブを着けた診察はできません。医療にお

日本赤十字社医療センター内の 一般診療などへの対応

日本赤十字社医療センターでは、新型コロナウイルス感染症に対応して、以下の診療科・処方せん発行・健康管理センターにおいて、通常と異なった対応を行っております。対応に変更がある場合は、随時ホームページでお知らせいたします。

産科・小児保健部

(9月16日現在)

- 妊婦健診
待合室および診察室への入室は、ご本人のみです。
- 分娩時
分娩時のご家族の立ち会いは可能です(ただし、出産後は面会できません)。また、分娩時はマスクの着用は必要ありません。
- 乳幼児健診
一時制限をしていましたが、現在は完全予約制で、通常通り年齢制限なく再開しています。また、付き添いはお子さま1人につき、大人1人までです。
- 小児予防接種
一時制限をしていましたが、現在は完全予約制で再開しています。また、付き添いはお子さま1人につき、大人1人までです。
- マタニティクラス
8月から一部のクラスをオンラインで開催しています。

電話診察による処方せん発行

(9月16日現在)

事前に診察予定があって、なおかつ医師が必要と判断した患者さんに限り、電話診察による処方せん発行が可能です。詳細はホームページ(QRコード)をご参照ください。



健康管理センター

(9月16日現在)

一時中止をしていました人間ドックは現在、再開しています。身体検査(一般健康診断)については、8月11日から予約制で再開しています。なお、感染リスクの高い呼吸機能検査については、原則中止としています。詳細はホームページ(QRコード)をご参照ください。



いは当たり前ですが、基本はマスクをきちんと着けること、手指消毒と手洗いを徹底して行いました。

センター一丸となって 感染症と対峙

院内の診療体制はどうだったのでしょうか。

当センターの感染症医師は3人ですが、患者さんの増加に伴って、多くの診療科の先生方の連携が進んでいきました。中でも、呼吸器内科の先生方は率先してPCR検査陽性の患者さんへの臨床を実践していただき、重症患者さんについては救急科の先生方が積極的に取り組んでいただきました。また、さまざまな診療科の医師や医療スタッフにもPCR検査陽性の患者さんの入院や外来を分担していただき、大変強力な専門チームができあがっています。本来は感染症を専門としない先生方も感染症対策をする必要があり、先生方にレクチャーをすることもありました。大変厳しい状況でも乗り切ることができたのは、このような診療科を越えた連携のおかげだったと思っています。

す。

新型コロナウイルスに感染していない患者さんの診療に当たる診療科でも、特別な対応が求められています。小児科では一時期、予防接種や乳幼児健診を制限していましたし、人間ドックや検査も中断していました。慢性疾患の患者さんに対しては、電話による診察と処方せん発行も行っています。

医療職の皆さんの様子はどうでしょうか。

常に強いストレス下にあつて、気が休まらず、つらい状態が長く続いています。それは今も変わっておりません。COVID-19の特徴は、症状の程度がさまざまなこと、ウイルスの潜伏期間が最長14日間と長いこと、症状が出る前から感染力があるといわれていることなどがあります。そのため、とても見つけにくい疾患であり、医療職は一瞬も気を緩めることができません。

発熱症状の入院患者が 増えて逼迫した院内

これまでを振り返って、特に大変

だったのは。

ゴールデンウィークに入る前に、発熱症状のある患者さんが救急車で搬送されたり、他の病院から紹介されたりして、逼迫した状態になりました。多くの患者さんは、熱はあるのですが、

だからといって、新型コロナウイルスに感染しているとは言えません。とはいえ、感染の可能性がある以上、想定して対策しなければなりませんので、感染の疑いがある患者さんも検査結果が出るまでの間、ベッドを使用することになります。PCR検査が陽性の患者さんも増えていきますが、当時は症状が比較的軽い方などについては、病院ではなく特定のホテルなどで滞在してもらおう仕組みはまだ完全には整っていませんでした。このため、COVID-19用に確保した病床も埋まっていき、状況は厳しくなっていきました。

——院内感染が発生したのはどのような状況だったのでしょうか。

5月半ばから6月半ばごろにかけて発生した院内感染は、COVID-19は疑われていない、別の疾患で入院された患者さんがきっかけでした。後に同室

の患者さんや医療スタッフに感染したことが判明しました。患者さんおよび患者さんのご家族には、多大なご迷惑とご心配をおかけしました。これを機に、よりいっそう感染防止対策に努めました。

まだしばらくは
個々人が感染を防ぐ努力を

——6月以降は落ち着いてきたようですが、その後はいかがでしょうか。

7月に入ってずいぶん落ち着いてきたように感じています。7月下旬時点では、入院しているPCR検査陽性の患者さんは1〜2人程度です。

しかし、7月後半から感染者数が一気に増えていきますので、安心はできません。感染数が今後増えていっても大丈夫なように、感染症科、呼吸器内科、救急科、小児科といった診療科を中心に、外科系とも連携できるような体制づくりを進めています。

7月からの増え方は、第一波といわれた時期をしのぐ勢いです。それにもかかわらず、以前行われていた感染症抑制のための積極的な施策が行われて

いないことを懸念しています。医療機関では新たな感染症の発生を抑制することはできませんので、行政での対策が進められない以上、今後の見通しは明るくないというのが正直なところです。

——最後に、患者さん方へのメッセージをお願いします。

病院を受診される方は何らかの持病をお持ちの方が多いのですが、皆さん大変意識が高く、不安を抱えつつもとてもしっかり対策をされていると感じています。

感染症で一番大切なのは、一人一人が自覚を持ってしっかりとした対策を取ることです。COVID-19は、こまめに手を洗う、人と室内で会話するときはマスクをするなど、基本的なことで感染を防ぐことができます。引き続き対策を続け、COVID-19を克服しましょう。

当センターでは、病院全体で感染対策の徹底に努めています。手術や検査も平常どおりに行っていますので、安心してご受診ください。



「新型コロナウイルス感染症対策本部」で指揮を執る上田部長

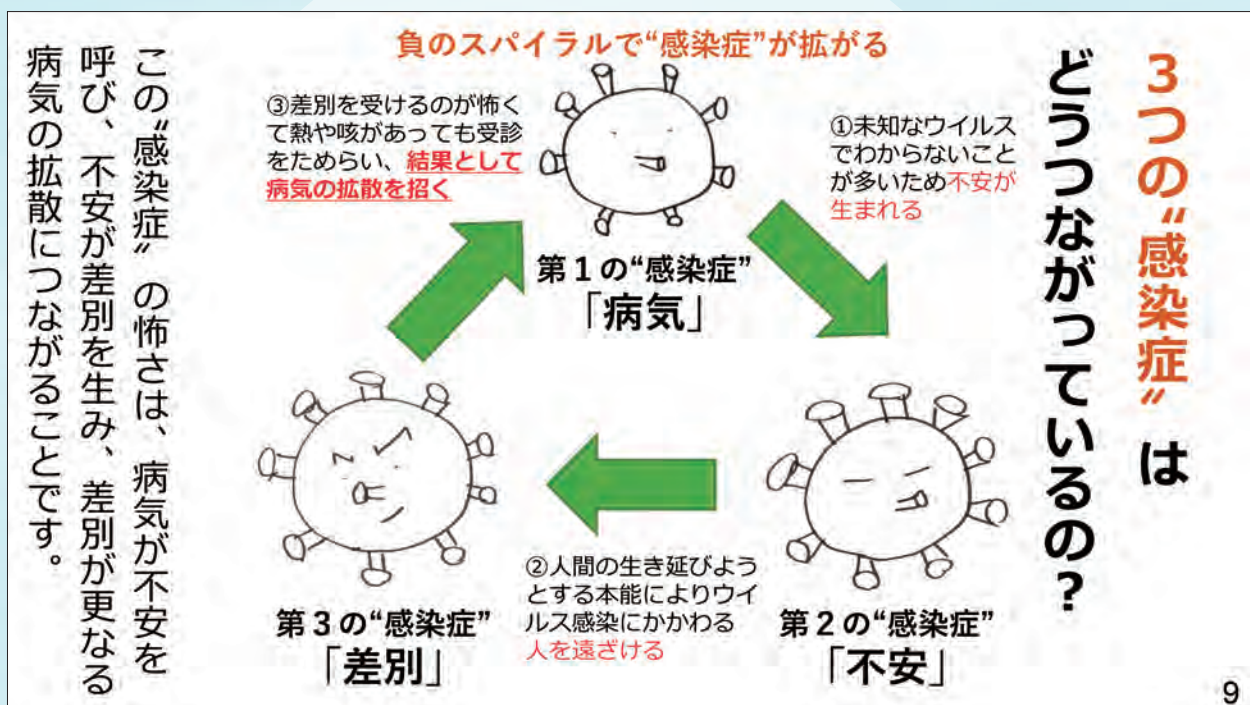
新型コロナウイルスの

3つの顔を知ろう！

日本赤十字社全体で進めている 感染拡大防止活動

日本赤十字社は、3月に一つのガイド「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」を作成しました。新型コロナウイルスは、「病気」そのものとしての顔だけでなく、「不安と恐れ」「嫌悪・偏見・差別」と3つの顔を持っていて、これによって、負のスパイラルが起きて、感染拡大を助長していること、そして、感染拡大を広げないための“処方せん”についてイラストを交えて解説しています。

このガイドは、日本赤十字社医療センターの国内医療救護部の丸山嘉一部長、メンタルヘルス科の秋山恵子臨床心理士、国際医療救護部の宮本教子救護係長も作成に関わっています。



(9ページ目を抜粋)



日本赤十字社の左記ホームページで全ページが公開されています。

同ガイドの新型コロナウイルスのイラストは、作成者の一人である秋山恵子臨床心理士が描いたもので、本特集の最初のページにも、ご承諾の上、使わせていただきました。

専門看護師・
認定看護師の

知恵袋

14

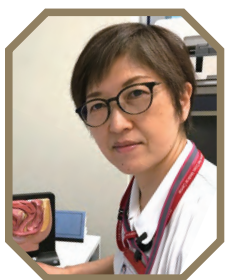


尿失禁を改善し 快適な生活を送りましょう

一般的に尿失禁が直接命に関わる

日本赤十字社医療センターには、日本看護協会が認定している専門看護師15人、認定看護師21人がおり(2020年8月現在)、それぞれの分野に特化した看護ケアを患者さんに提供しています。本連載は、私たち「専門看護師」「認定看護師」を皆さんによりいっそう知っていただくため、耳寄りな情報をリレー形式でお伝えします。

皮膚・排泄ケア認定看護師
大沢 順子
Junko Osawa



1 瞬発力を鍛える方法
肛門、膣、尿道のいずれかを意識して、きゅっと締めたり、緩めたり、締めたり、緩めたりとテンポよく繰り返していきます。

後などにもみられる腹圧性尿失禁がある場合、自分で行うことができる骨盤底筋訓練について紹介します。骨盤底は、骨盤底筋群と呼ばれる複数の筋肉や支持組織からなり、骨盤内の臓器をハンモックに乗せるようにして支えています。肛門や膣を締める訓練をすることで、骨盤底筋群の筋肉が回復し、尿道を締めることができ、尿漏れの症状を改善できる可能性があります。

2 耐久力を鍛える方法

肛門、膣、尿道のいずれかを意識して、ゆっくりぎゅっと締め、3〜5秒程度締めたままにして、その後ゆっくり緩めます。これを繰り返していきます。
※それぞれ1回につき20〜30回程度、一日数回行ってください。

【ポイント】

骨盤底筋群を正しく締めたり緩めたりを行うことです。毎日一定回数以上繰り返すことで筋力は強くなります。正しく行えないと回



数を多くしても無駄になります。

● 全身の力を抜き、リラックスして行いましょう。また、呼吸を止めないようにしてください。

● 自分の生活習慣に合わせて、毎食後や就寝前、起床時など毎日継続できるようにしましょう。無理なく続けることが大切です。一度にやりすぎないように注意しましょう。
最初は、骨盤底に臓器の重みがかからない仰向けの姿勢で行い、骨盤底筋群を締める感覚が分かるようなら座ったり、立ったりするような姿勢でも良いでしょう。

骨盤底筋群の筋力が強くなり効果が得られるまでには3カ月から6カ月程度かかります。尿失禁は骨盤底筋訓練だけで改善されるわけではありません。肥満や便秘の予防、喫煙やアルコール・カフェインの過剰摂取に注意することなど、生活習慣の改善が必要な場合や専門的な治療が必要な場合もあります。

私たち皮膚・排泄ケア認定看護師は、患者さんがモチベーションを維持しながら尿失禁を少しでも改善、またはうまく付き合いながら、快適で自分らしい生活を送れるようケアを行っています。

「皮膚・排泄ケア認定看護師」とは

「皮膚・排泄ケア認定看護師」は、日本看護協会による認定看護師の一つで、床ずれのスキンケアやストーマ(人工肛門・人工膀胱)の管理、排便・排尿の機能改善に関する専門的な教育を受け、高い知識と技術を持ったエキスパートです。

● 専門看護師

(CNS: Certified Nursing Specialist)
分野は13で、複雑な問題を持つ患者およびその家族などに対して水準の高い看護ケアを提供し、また、多職種との連携や看護教育など、認定看護師より幅広い役割を担っている。

● 認定看護師

(CN: Certified Nurse)
分野は21で、特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて、高い水準の看護を実践する。



ママと赤ちゃんの

HAPPY BIRTH ROOM

周産期の育児支援

40

周産期における 「小児外科」の役割



昨今、テレビドラマ『コウノドリ』や『グッド・ドクター』などでやっと知名度が上がってきた「小児外科」ですが、実際にはあまりなじみのない方が多いのではないのでしょうか？ そこで、本日は「小児外科」についてご紹介します。

★小児外科の病気って？

周産期に小児外科に関わる疾患の多くは先天性のものです。どれも発生頻度は非常に低いので、一般の方にはあまり知られていませんが、食道や十二指腸が途中で途切れていたり、お尻の穴が開いていなかったり、肺や骨盤内に腫瘍ができていたり、さまざまな疾患があります。いずれも構造上の異常ですので、お薬で治すことができず、私たち外科医が担当することになります。これらの病気は出生前の胎児エコーで分かることも多く、そのような時は「周産母子・小児センター」の一員として、出生前から産科や新生児科の医師と連携して、お産のタイミングや分娩方法、赤ちゃんの出生後の治療計画などをディスカッションしながら赤ちゃんの誕生を待っています。

また、当センターではとても小さく生まれた赤ちゃんや早産児を数多くお世話していますが、未熟な状態で生まれてきた赤ちゃんに特有の腸管の異常というものもあります。腸管の未熟性のために胎便を出せなかったり、母乳やミルクをうまく消化できなかったり、異常が進む

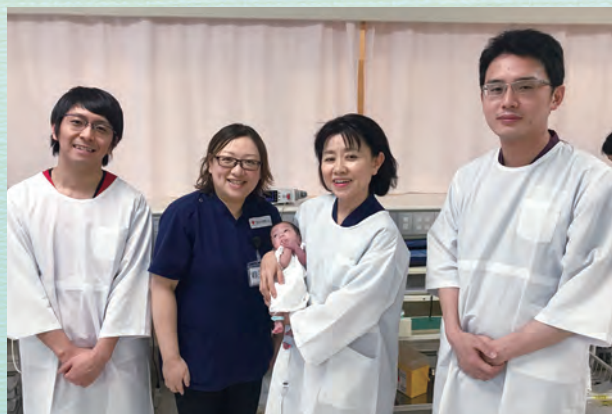
と腸が破れてしまうこともあります（消化管穿孔）。そうになると開腹手術が必要になるので、できるだけそうならないように、予防と異常の早期発見のため、新生児科医・看護師と一緒に私たち外科医も朝な夕な“おなか”の状態を細かく観察しています。日々のケアを担当する看護師には豊富な知識と経験の蓄積があり、赤ちゃんのわずかな変化にもいち早く気が付けてくれるので、非常に頼もしく思います。

このような赤ちゃんたちが、十分な栄養を点滴ではなく自分の腸から吸収できるようになり、いいウンチをブリブリ出せるようになると心の底からほっとしますし、欲を言うとおっぱいや哺乳瓶をお口いっぱいくわえて、体重が毎日メキメキ増えるのを見られると本当にうれしく、それが仕事を続けるモチベーションにもなっています。

★ママたちの心配を軽くしてあげられたら…

先天性の病気にしる、後天性の病気にしる、生まれてすぐに治療を要する赤ちゃんのママたちは、自分のことを責めてしまうことが多いです。その気持ちを消すことはなかなかできないことだと思いますが、赤ちゃんの病気は決してお母さんのせいではないということ、自分を責めても何もよくなるはないということをぜひお伝えしたいと思います。そして、お母さんたちの心配を少しでも軽くするには、赤ちゃんを元気にすることしかないな、と思っています。

できれば外科医とは縁が無いに越したことはありませんが、何かお手伝いできることがあれば全力でサポートします。



産科や新生児科と連携して、赤ちゃんを元気にするためにサポートします



周産母子・小児センター
副センター長/小児外科部長

中原さおり

Saori Nakahara

なんでも
大事典

こぐまチーム

～がんになった親を持つ子どもへの支援チーム～



どんな悩みでもぜひ相談してください！

こんにちは。初めましての方も多くいらっしゃるかと思います。
私たちは、「がんになった親を持つ子どもへの支援チーム」、通称「こぐまチーム」とい、医師、看護師、臨床心理士がチームとなつて活動しています。

「がんと診断される」ということは、人生における大きな事件です。命には終わりがあるという、普段意識しなかった事実を突き付けられ、治療やお金、仕事、家族のこなど、押し寄せてくる混乱に、どうしていいか分からなくなってしまった経験を持つ方も、多くいらっしゃるのではないのでしょうか。子育て中の方はそれに加え、子どもにど

う話そう、治療と子育てをどう両立していけばいいのだろうか、もしこの先、自分がいなくなってしまうたら、などといった悩みや不安も生まれてきます。そして多くの方はこの思いを、誰にも話せず独りぼっちで抱えています。

お子さんも、お父さんやお母さんの具合が悪かったり、何か悩み事があることとうっすら気付くことが多いようです。しかし、お父さん、お母さんは何かの病気だ、と気付いても、その不安を言葉にできる子どもは実はそれほど多くはありません。お互いに言えない、聞けない中で、「私が良い子じゃなかったから、お母さんは病気になっちゃったのかな」と考えてしまう事例は、実はとても多いのです。

もし、お子さんと病気のことを話す機会があり、お子さんがそういうふうと考えていることに気付いたら、ぜひ「あなたのせいではない」、「誰のせいでもない」と伝えてあげてください。

私たちは、このお互いの行き詰まった気持ちや状況をサポートするために活動を行っています。

● 病気について、子どもにどう話したらよいのだろうか。

● 治療と子育てをどう両立したらよいのだろうか。

● 家庭内に問題があり、入院中子どものサポートが必要だがどうしたらよいのだろうか。
● 何かしらの支援を受けたいけれど情報がない。

こぐまチームにはこんな悩み事が寄せられます。何を相談したいか分からないくらいに混乱していても、もやもやとした悩める思いを誰かに話すことで、解決するべき問題点が浮き彫りになってくることもあります。一人で悩まず、ぜひお気軽にご相談ください。お子さんと今後を生きていくためのヒントになれば幸いです。



〈相談をご希望の方へ〉

- 外来通院中の方
1階がん相談支援センターへお越しください。
- 入院中の方
病棟看護師へ「サポートを受けたい」とお声がけください。

サイバーナイフ治療器を最新鋭機器に更新し、治療再開

当センターのサイバーナイフ治療は、2008年4月にタイプG3が導入され開始し、7263人ももの患者さんの治療を行い、2019年12月5日にはタイプG3の役目を終えました。

2019年12月からは、最新鋭のタイプM6の機器に更新するため、一時サイバーナイフ治療は中断していました。その後、COVID-19の拡大もありましたが、医師やスタッフは引き続きトレーニングを受講し、再開に備えていました。4月には機器の調整も終え、2020年4月27日に新しいサイバーナイフが稼働を開始し、7月31日までに新たに109人の患者さんの治療を行いました（グラフ参照）。治療時間の大幅な短縮、治療計画の選択肢の拡大と患者さん、担当者にとって大きなメリットを感じています。

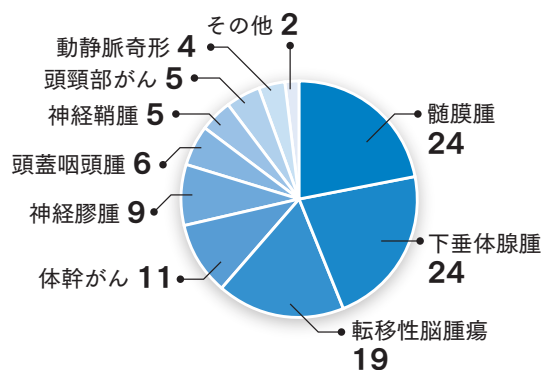
最新鋭のタイプM6の運用は脳神経外科と放射線腫瘍科との共同で行っています。治療範囲も脳腫瘍、脳背髄動脈奇形、頭頸部がん、体幹部がんと多岐にわたっています。



最新鋭のタイプM6

日本赤十字社医療センター サイバーナイフ治療

疾患別治療数 109例 (2020年4月27日～7月31日)



外来受診をご希望の方▶ 直通電話 **03-3400-0406** までお電話ください

ご寄付

たくさんのご寄付や応援をいただきありがとうございます！

新型コロナウイルス感染症に対する当センターへの支援のため、たくさんの方の寄付金やマスク、ガウンなどの医療資材のご寄付、応援メッセージなどをいただき、誠にありがとうございました。個人さまからは約200件、団体・企業様からは約70件にも上りました(7月7日時点)。

皆さまからの貴重なご寄付は、新型コロナウイルス感染症対応のための機器整備や資材購入などにかかる費用、通常診療にかかる医療機器・材料の購入費を含めた「病院事業運営資金」として大切に使用させていただきます。いただいたメッセージは、スタッフが使用するラウンジに設置しており、多くのスタッフが温かいお言葉に励まされています。

感謝の気持ちを胸に、これからも皆さまに安心していただける医療を提供できるよう努めてまいります。

ご芳志への感謝の気持ちを込め、ご芳名を紹介させていただきます。なお、許可をいただいた個人、法人および団体名のみを掲載しています。



- | | | |
|-------------|------------|--------------|
| 守屋 豊 さま | 柴田 恭子 さま | 安座上 陽三 さま |
| 株式会社 | 栗村 仁 さま | 奥村 彰太 さま |
| デジタルワレット さま | 村瀬 信一郎 さま | 井上レール合名会社 さま |
| 宮川 英治 さま | サポートメディカル | 山口 大輔 さま |
| 中谷 秀雄 さま | フロントライン さま | 根岸 月華 さま |
| 福間 英昭 さま | 岡野 智子 さま | YNF株式会社 さま |
| 浅野 恵造 さま | 安座上 すみ子 さま | |

※順不同

いつも貴重なご意見をありがとうございます

こんにちは、ご意見箱です。

コロナ禍という状況もあり、施設設備に関するご意見を多数いただきました。対応の遅れなどもあり、不安なお気持ちにさせてしまったことをお詫び申し上げます。また、そのような中でも、励ましや感謝の投書を普段よりもたくさんいただきました。本当にありがとうございました。今後もソーシャルディスタンスを守りつつ、寄り添う気持ちを大切にしていきたいと思っております。皆さまが本号をお読みになる頃にはどのような状況になっているか分かりませんが、感染対策はいつ、どんなときでも必要です。ご来院の際は、マスクの着用と手指消毒のご協力をお願いいたします。

「呼び出し機」の保清について

今回、「呼び出し機」の保清についてご質問をいただきました。呼び出し機は使用ごとにエタノールの入っている除菌シートで拭いております。ご持参の消毒液を吹き付けたりすると、消毒液によっては表示画面が曇ったり、故障の原因となりますのでお控えくださいますようお願いいたします。



ご意見箱は
院内に15カ所
あります。

(外来6カ所、入院病棟
各フロア1カ所)

皆さまのご意見を
病院内の環境改善に
役立ててまいります！



日本赤十字社キャラクター
「ハートちゃん」



呼び出し機は使用ごとに消毒しています

診察のご案内

月	火	水	木	金	土	日	祝
○	○	○	○	○	休診	休診	休診

- 外来休診日 …… 土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)、日本赤十字社創立記念日(5月1日)

- 受付時間 ……

予約のない方	初診・再診 8:30～11:30
予約のある方	初診 8:30(初診受付開始)～予約時間の30分前
	再診 7:50(再来機開始)～予約時間の20分前

※ 受付時間は診療科によって異なりますので、事前に診療科受付へお問い合わせください。
また、初診の方は必ず「かかりつけ医からの紹介状」をご持参ください。

- 急病の場合 …… 曜日、時間に関係なく、救急外来で診察します。ご来院の前にお問い合わせください。
- 診察カード …… 全科共通で永久にご使用できます。ご来院のときは必ずご持参ください。
- 健康保険証 …… ご来院のときに確認していますのでご持参ください。
また、保険証の更新・変更時には必ず受診科受付にご提出ください。

代表 TEL : 03-3400-1311

